



十種ヶ峰

第31号 2009.6 (季刊 6月・9月・12月・3月 発行)

自然と人を愛す

～地球環境の変化の中で～

所長 木橋悦二

この4月から、当所の会議室の正面に『自然と人を愛す』と書かれた額が架けられている。

中国山地の標本的な自然景観を有する十種ヶ峰北部は青少年の自然体験活動の拠点として、多くの青少年や自然を愛する人々によって利用され、保全されてきた。自然と人を大切にし、自然と共生する生き方は言うまでもなく人の生活の基本をなすものであり、時代を超えて人が求める素朴な願いである。

自然の破壊が顕在化しはじめた 1950 年代後半、自然保護教育の必要性が論じられはじめ、自然を保護する具体的な活動が各地で行われるようになった。このような動きに合わせ、環境教育(英語の直訳)ということばが 1970 年代後半から使用されるようになった。

今日の地球温暖化をはじめとする地球環境の変化に伴い、人間社会の持続性のためのグローバルな議論がなされるとともに環境の保護・保全の理論と方法が提言され、各国が協調して取り組んでいる。もちろん温暖化一つを取り上げても、確実なデータの把握と状況の説明は一元的になっていないし、今後も議論が交錯するであろうと思われる。

いずれにしても、人間活動が地球の(大気)の温暖化に関与していることが明らかである限り、さらなる温暖化を防止することが人類の未来にとって最も重要なタスクであることに疑義を挟む人はいないであろう。しかし、現実の国家制度は、経済のグローバル化に対応して現代国家の枠組みを砕き、世界的社会への成長をめざす動きを阻んでいるように思える。

ヨーロッパで見られる 1980 年代後半からの拡大ヨーロッパ・(EU)への国家の再編成もまだまだ途上にあり、いうまでもなく他の地域においては、旧態依然とした近代的国家の利益がなお追求され、世界全体としては経済と社会の

アンバランスが今時のような金融危機に始まる経済不況を引き起こしたと考えることができる。

ところで、経済不況が深刻化すればするほど、現実の生活の保守・持続が優先され、自然環境の保全や人間関係の成長など、真に必要な課題が先送りされる傾向が大変強くなる。戦後のわが国の経済成長が「近代的な自然(水田、里山、里海など)との共生」を破壊し、公害を引き起こし、その結果として環境の浄化と保全に多大な財と労力が費やされていることは周知のことである。

時代が移り変わり、経済や社会のシステムが変わろうとも地球環境が壊され、劣化し、その結果として起こる人類の生存に関わる問題を等閑視することはできない。世界の青少年が、しっかりとした体験と知識と知恵によって生活の舞台としての地球とその自然を愛し、互いに手を結ぶことができれば、グローバルな価値を共有する国際社会の構築が案外早くにできるのではないかと思う。

自然を愛する心は人を愛する心と同じである。「自然と人を愛す」心が生まれ、世界がこのような心で結ばれることを願ってやまない。ことはそんなに簡単には運ばないとすぐに言われるであろうが、だれでもが考えつくような単純明快なことさえもできないのが人間の弱いところであると安易に得心したくはない。

当教育施設の持つ力は小さいが、世界と繋がる教育をいつも念頭におきたいと考えている。

～ 吉野山 峰の白雪ふみわけて

入りにし人の 跡ぞ恋しき ～



白くてかれんな花を、源義経を慕う「静御前」(シズカゴゼン)になぞらえ『ヒトリシズカ』と命名。奇しくも、ここ阿東町は、「静御前」のゆかりの地でもある。

十種ヶ峰に咲くヒトリシズカ (5/7 撮影：わらじい)

新任職員の紹介

○主 査：柳 忠 男（山口総合教育支援センターより）



毎日肌で触れる素晴らしい十種ヶ峰の自然に感動しています。

この感動を大切に、初心に戻って頑張ります。

○指導員：鮫 島 克 徳



十種ヶ峰の自然と、ここ野外活動センターで出会える人たちを心で感じたいと思います。

全力投球で頑張りますのでよろしくをお願いします。

○長期研修生：吉 安 仁 美（周南市立富田西小学校より）



豊かな自然、温かい人々に囲まれて過ごせることに喜びを感じています。

命の恵みがたくさんの十種ヶ峰で、多くのことを吸収し、自分自身を成長させていきたいと思います。

○事務補助：佐々木美沙子



「はじめまして」この十種ヶ峰を毎日眺めながら育ちました。幼い頃から親しんできたこのセンターで、勤務が出来ることをうれしく思います。入所される皆様にお役に立てる様頑張ります。

平成21年度

職員紹介



「自然と人のぬくもりをとどけよう」を合い言葉に、

職員一同、皆様のご来所を心よりお待ちしております。

※（ ）はキャンプネーム

所 長	：	木 橋 悦 二	（モクさん）
次 長	：	藤 村 幸 生	（わらじい）
主 査	：	柳 忠 男	（リュウさん）
社会教育主事	：	國 近 博 志	（あにきん）
指導主事	：	手 嶋 泰 寛	（てっしー）
主 任	：	石 川 雅 司	（石さん）
指 導 員	：	藤 村 真 智 子	（まっち）
指 導 員	：	鮫 島 克 徳	（サメちゃん）
長期研修生	：	吉 安 仁 美	（よっC）
事務補助	：	佐々木 美沙子	（ミサちゃん）

主催事業の思い出

主催事業への多数のご参加ありがとうございました。

「とくさがみね自然体験プログラム」
PART 1～いぶき～（4/18～19）



十種ヶ峰山頂にチャレンジ



山菜採り



天ぷら作り

【感想】

いつも、テーマの中に色々な意味や思いが込められており、それを身体と心で自然を感じることができ、リフレッシュさせていただいています。

研修の効果測定をお願い!

本施設の教育プログラムの効果を「生きる力」の向上として捉え、その変容の効果測定を行う

本施設が提供する体験活動等の児童・生徒への教育的な効果について明らかにするために研修の評価を下記のとおり実施します。

- 調査対象 県内の小・中学校の児童生徒
（本施設が入所団体から抽出、協力依頼）
- 調査内容 「IKR（生きる力）評定用紙」
（28の質問項目からなるアンケート）
- 調査回数 研修前、研修終了後、終了二ヶ月後以上、施設利用の貴重な時間をお願いするのは誠に恐縮ですが、本調査の主旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

山口県十種ヶ峰青少年野外活動センター

〒759-1602 阿東町嘉年下1883-2

TEL：083-958-0033 FAX：083-958-0705

HP：http://www.journey-k.com/~tokusagamine/